

# 「英語脳」の持つ能力の特徴と その原因について

GTECデータ分析による考察

ベネッセコーポレーション  
山下 仁司

**はじめに**

**GTECの概要**

<http://www.benesse.co.jp/gtec/>

# GTEC CBT とは？

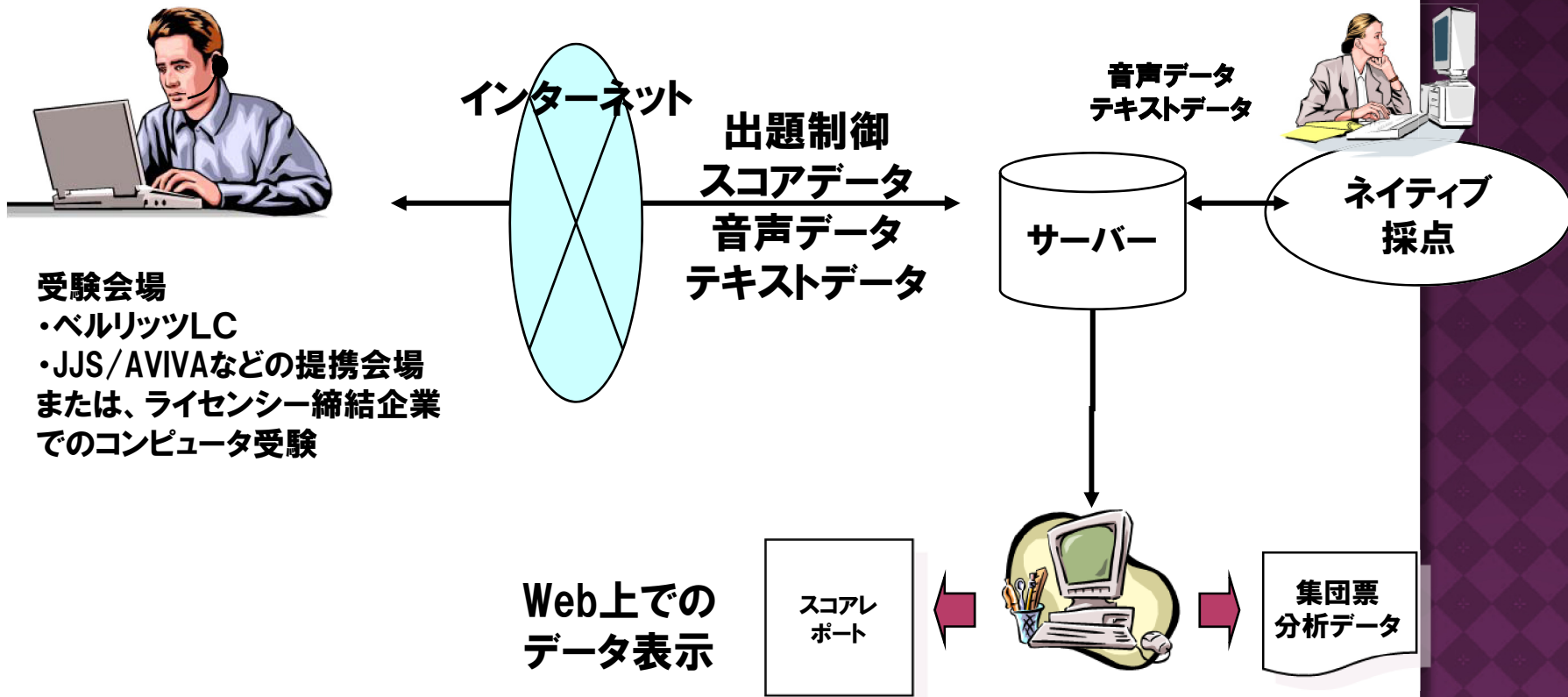
2004年にスタートした、ビジネス向け英語能力テスト

- ・ベルリッツ・インターナショナルとベネッセによる共同開発
- ・CATとCBTを組み合わせ、リスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの4技能が一度に80分で測定できるテストとして、企業およびベルリッツ受講生を中心に普及
- ・満点：1000点満点、リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング各250点のスコア制
- ・IRT(項目反応理論)を利用した、ぶれない評価システム 米・日・韓国特許取得(日本登録第3645901号)
- ・インターネットを利用したテスト(WBT)で、世界中どこからでも受験可能。総計10言語の受験者に対応
- ・現在年間約3万人、採用企業数約1000社(特に外資系企業はTop Tierが多い)

データ件数		満点	平均スコア	SD	MIN	MAX
n=14,907 (2005年1月～12月)	Total	1000	509.5	116.2	35	1000
	リスニング	250	131.8	30.9	0	250
	リーディング	250	114.6	33.9	0	250
	ライティング	250	133.0	35.4	0	250
	スピーキング	250	130.1	30.6	0	250

## GTEC出題の仕組み

- ・リスニング・リーディング→CAT(Computer Adapted Test)
- ・ライティング・スピーキング→LRの結果または前回のスコアを元に困難度幅を絞ってランダム出題
- ・受検前に、インターネットを通して必ず英語学習などに関するアンケートに答える必要がある。(今回の研究のデータ元)



## GTECの信頼性

IRTを使用したテストであるので、個々の受験者のテスト情報量から信頼性を測定することが可能。

	測定誤差(68%信頼区間)
Listening	±9.3
Reading	±7.6
Writing	±10.1
Speaking	±6.8

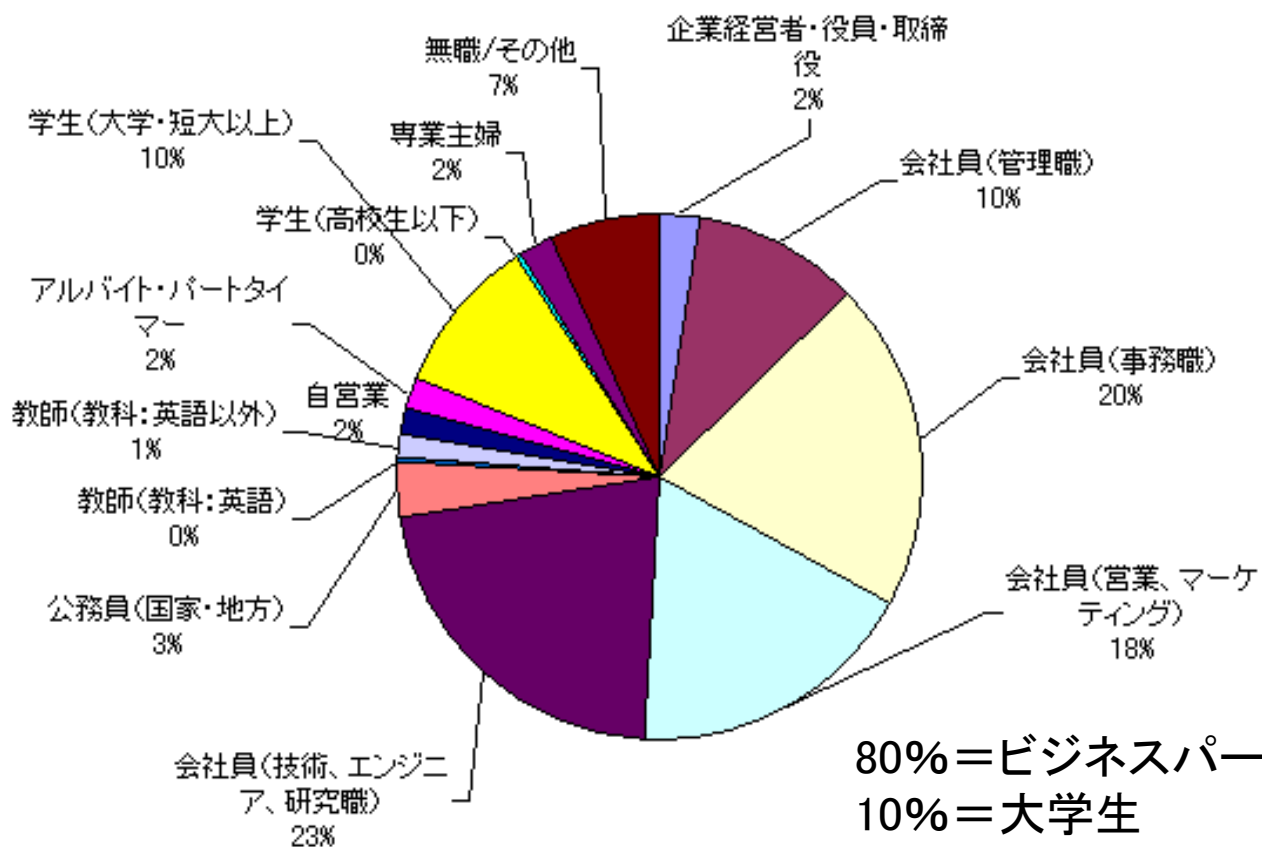
1000点満点で±35程度

n=453 2005年12月の受験者の平均値

# GTEC 受験者はビジネスマン中心

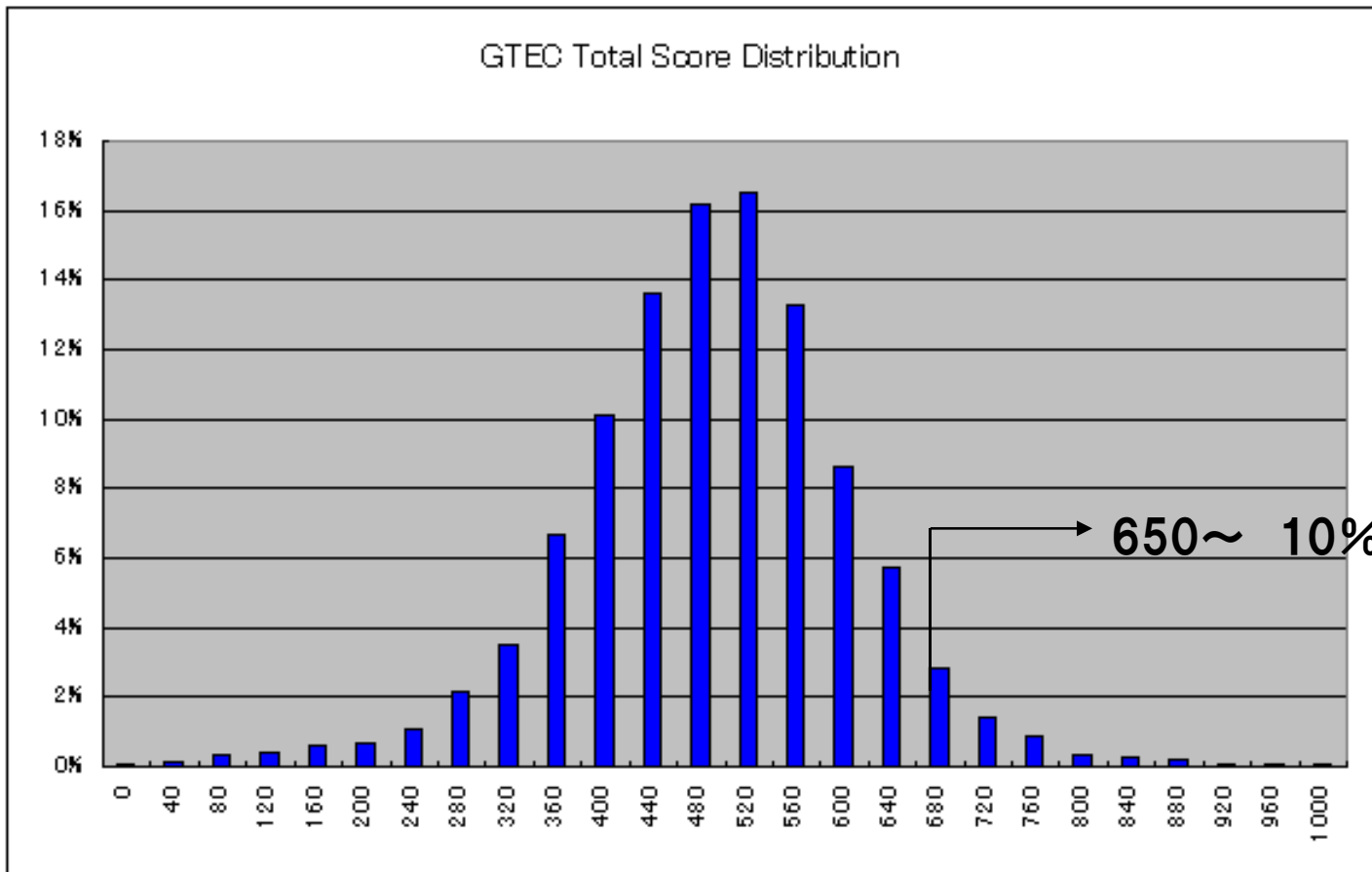
## 受験者構成

GTEC受験者構成



80% = ビジネスマン  
 10% = 大学生  
 10% = その他

# 日本のビジネスマンの英語力分布はどの程度か？



Score Level	Level Description	日本人割合(%)
650~	海外赴任可能、業務で仕事ができるレベル	10%
550~650	海外出張可能レベル	22%

**第1部. 「英語のまま考えて話せる／書ける」人の英語力は、日本語を通じてしかできない人とどのように違うのか？何が違うか？**



## 基礎データ

集計数 n=648

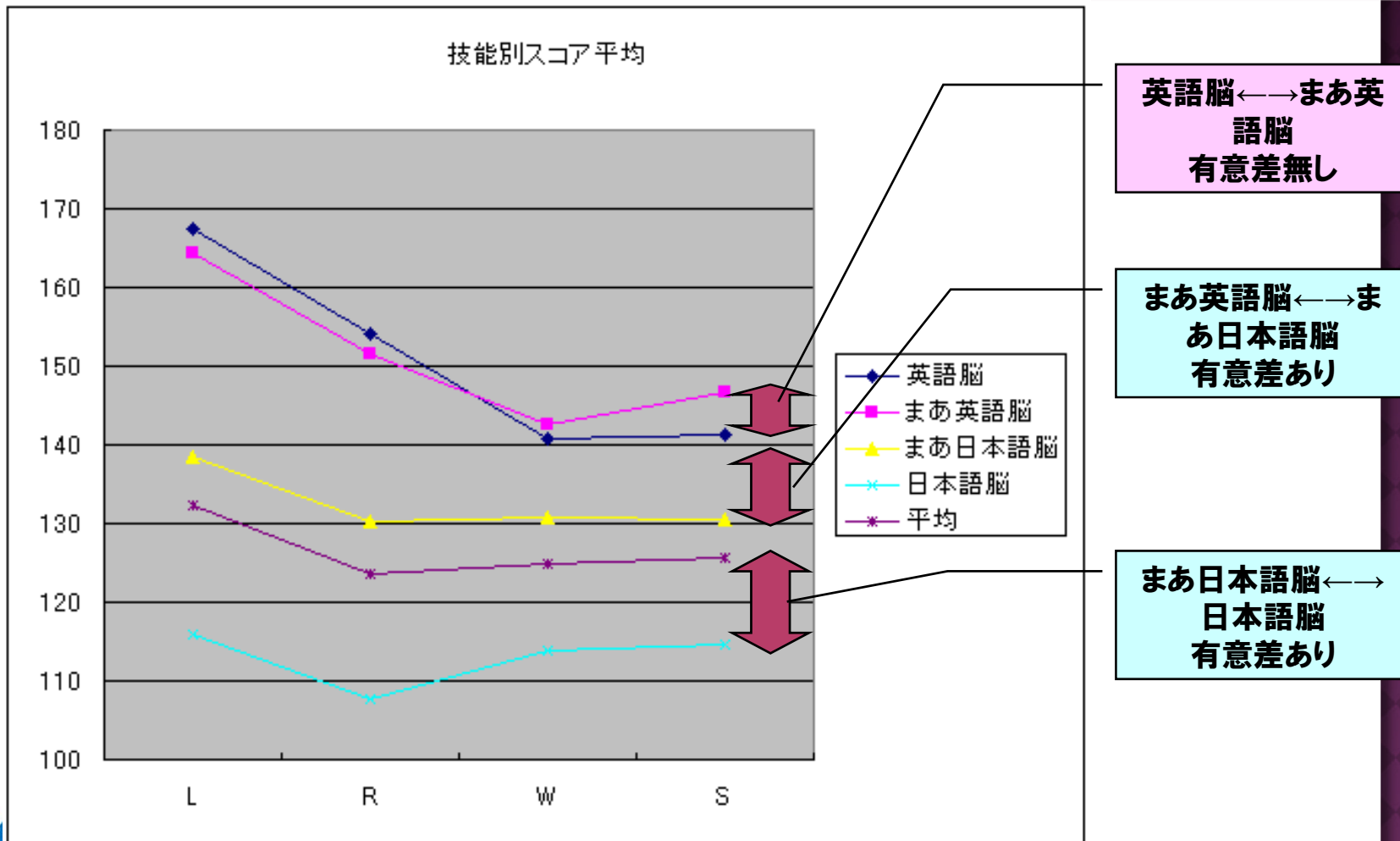
集計期間 08年6月(2週間)

「英語脳」であるかどうかを確認する質問内容（受検前に答える必要があるアンケートの一部）

Q22 あなたは、英語を話したり、書いたりするとき、(先に日本語で考えずに)直接英語で考えながらできますか？	
1. ほぼどんな場合でも直接英語で考えて話したり書いたりできる	=英語脳
2. 大体英語で考えて話すなどできるが、時々日本語を先に考えることがある	=まあ英語脳
3. 簡単なことであれば英語で考えて話すなどできるが、複雑なものは日本語で考えて訳す=まあ日本語脳	=まあ日本語脳
4. ほとんどの場合、先に日本語を考え、それを英語に訳してから話したり書いたりする =日本語脳	=日本語脳

# 1. 英語脳と日本語脳の英語レベルの違い

英語で考えて話したり書いたりするという自覚がある人は、確かに英語能力も高い。ただし、「英語脳」と「まあ英語脳」の差はなく、一部逆転も起きている。これは、できる人ほど自分を厳しく見る傾向が影響していると思われる。



# 補足 分散分析による平均値の差の検定結果

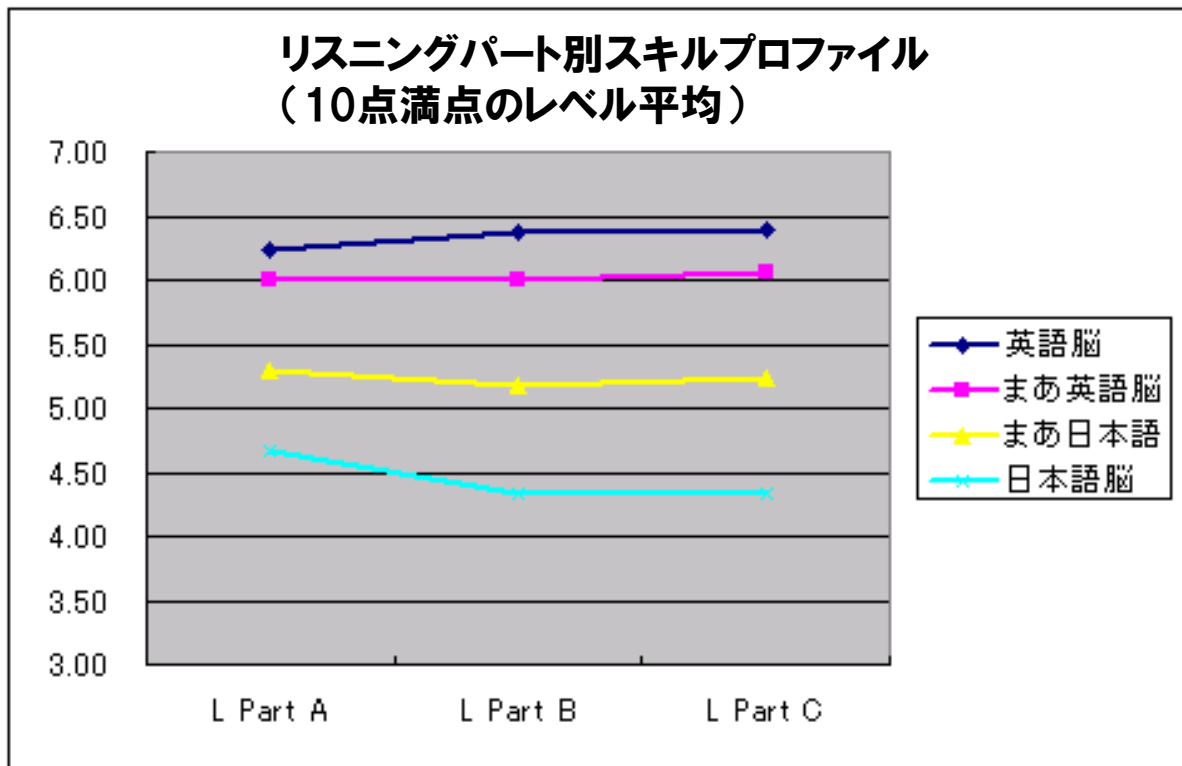
	英語脳	まあ英語脳	まあ日本語脳	日本語脳	平均
L	167.3	164.5	138.5	115.8	132.2
	P=0.9848 有意差無し		P=0.000		
		P=0.000			
R	154.2	151.6	130.3	107.8	123.5
	P=0.9861 有意差無し		P=0.000		
		P=0.000			
W	140.8	142.5	130.7	113.9	125.0
	P=0.9951 有意差無し		P=0.000		
		P=0.0043			
S	141.2	146.6	130.5	114.7	125.7
	P=0.9599 有意差無し		P=0.000		
		P=0.000			

注:

R・Wは等分散性の仮定が棄却されなかったので、Sceheffe の多重比較によるP値

L・Sは等分散性の仮定が棄却されたのでクラスカル・ウォリス検定によるP値

## 2. 英語脳と日本語脳の英語力の質的な違い(受容技能)

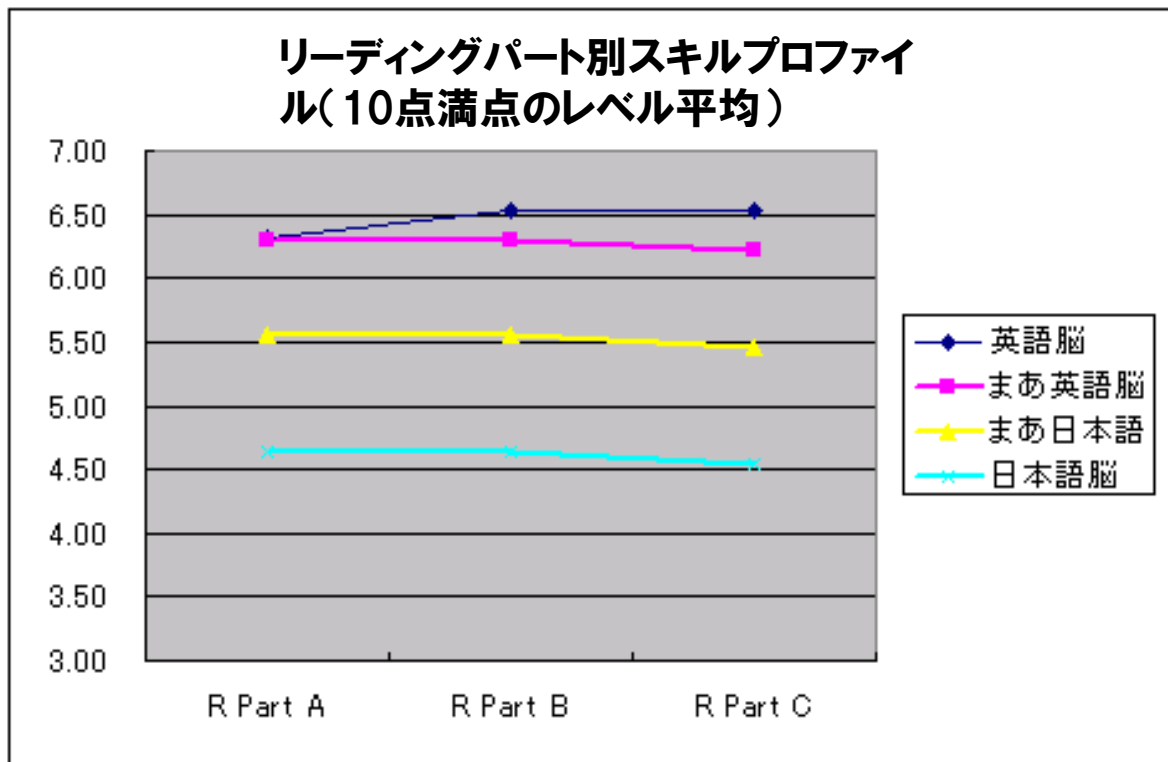


パート	リスニング
A	リスニングのボトムアップ能力 特に、語彙や表現の知識と音の認識
B	リスニングのボトムアップ能力 特に文脈のない場面で質問や文を聞き取る力
C	リスニングのトップダウン能力、特に文章・会話の内容から推測したり予測したりする能力

■受容技能のスキルプロファイルレベルの平均は、スコア平均と傾向がほぼ同じ。

■リスニングでは、どのカテゴリーも概ねトップダウン・ボトムアップ能力ともほぼ同程度だが、「日本語脳」の群の音素の聞き分け、トップダウン的能力が低い傾向

## 2. 英語脳と日本語脳の英語力の質的な違い(受容技能②)

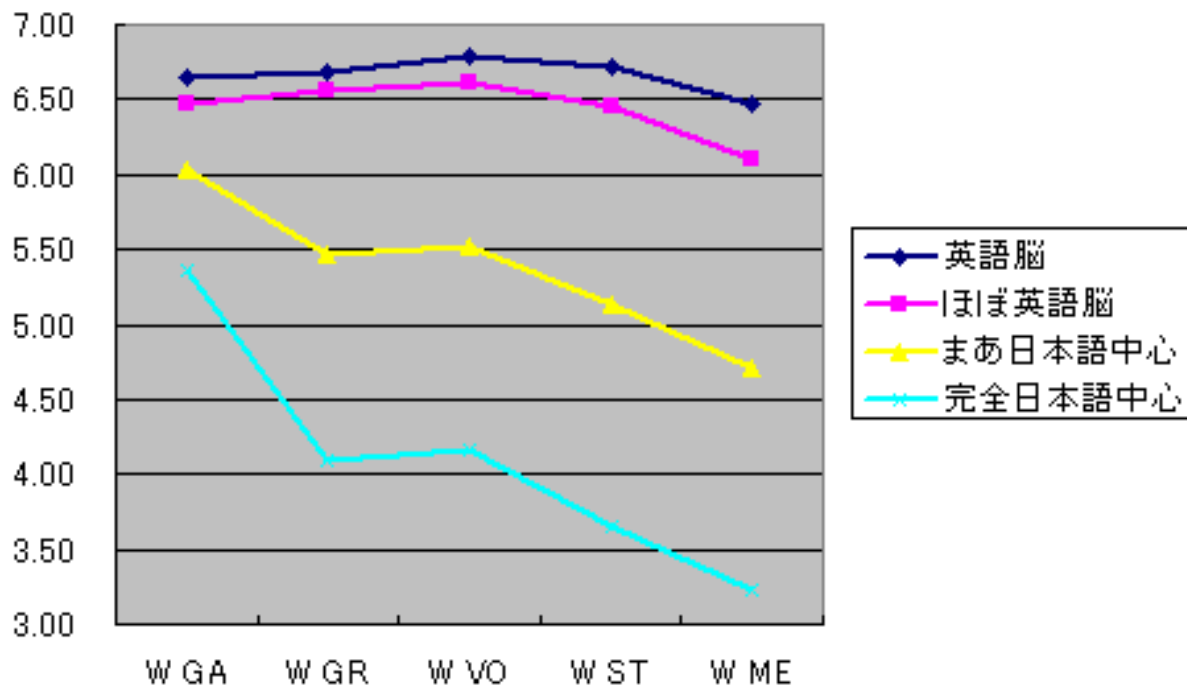


パート	リーディング
A	リーディングで、何語程度の長さの文を読めるようになっているか、また、特に、語彙や表現の知識
B	リーディングで、1分間に100~150語程度の速読の能力があるか、また、スキミング(大意把握)の能力
C	リーディングで、1分間に100~250語程度の速読力があるか また、スキミングや文章構造の理解能力

■リーディングでは、各カテゴリーの差は同様だが、スキルプロファイルに特徴的な違いは見られない。  
「日本語脳」の群は、語彙知識・一読して理解できる1文あたりの長さ、速読力共にレベルが低い。

### 3. 英語脳と日本語脳の英語力の質的な違い(ライティング)

ライティングパート別スキルプロファイル  
(10点満点のレベル平均)



	測定技能
GA	意図がどれだけ伝わっているか
GR	文法の正確性・適切さ
VO	語彙の豊富さ・使用の適切さ
ST	構成の適切さ
ME	綴り・句読点など

ライティングでは、「英語を使ってメッセージを伝えられるか(GA)」の点では比較的差がないが、文法・語彙・文章構成・綴りやパンクチュエーションの点では明らかに大きな差が見られる。特に、英語脳とそうでない者の差は文章構成と、綴り・パンクチュエーションでの差が大きい。英語脳になっていない者は、文章構成などに気を配る余裕がない、または自ら書いたものを推敲する能力に欠けていると考えられる。

## 5. 各技能スキルプロファイルの差－詳細① ライティング

技能	スキル	群	平均レベル	プロフィール
ライティング	意図の伝達	日本語脳	5	主要なことは何とか英語で伝えることができる
		英語脳	6~7	報告書やメールなどにおいて、ある程度複雑な内容でも表現できる。
	文法	日本語脳	4	ある程度英語の語順は感覚的に身につけてきているが、重文や複文は作れない
		英語脳	6	複文、重文などの使用は自然で、15語程度の文は作成できるようになっている
	語彙	日本語脳	4	基本語彙1000語は概ね使える。接続詞などが使えるようになっている
		英語脳	6~7	語彙はビジネスで日常的に使用されるレベルであれば問題なく使えるようになっている。かなり多様な語彙が使用できる
	構成	日本語脳	3	5~6語程度の短い文は書けるが、文と文のつながりを接続詞や副詞で適切に構成することはまだ完全にはできない状態です。
		英語脳	6~7	定型的な文章であれば、ビジネスで使用される表現・構成の知識や経験をもとに書ける。
	綴り	日本語脳	3	スペルミスや句読点の抜けなどが、かなりの頻度で見られる
		英語脳	6~7	部分的にスペルミスなどが見られる

## 補足 分散分析によるレベル平均値の差の検定結果 (ライティング)

P値

	日本語脳とまあ日本語脳	まあ日本語脳とまあ英語脳	まあ英語脳と英語脳
GA	0.0000	0.0002	0.9998
GR	0.0000	0.0000	0.9977
VO	0.0000	0.0001	0.8143
ST	0.0000	0.0000	1.0000
ME	0.0000	0.0000	0.9998

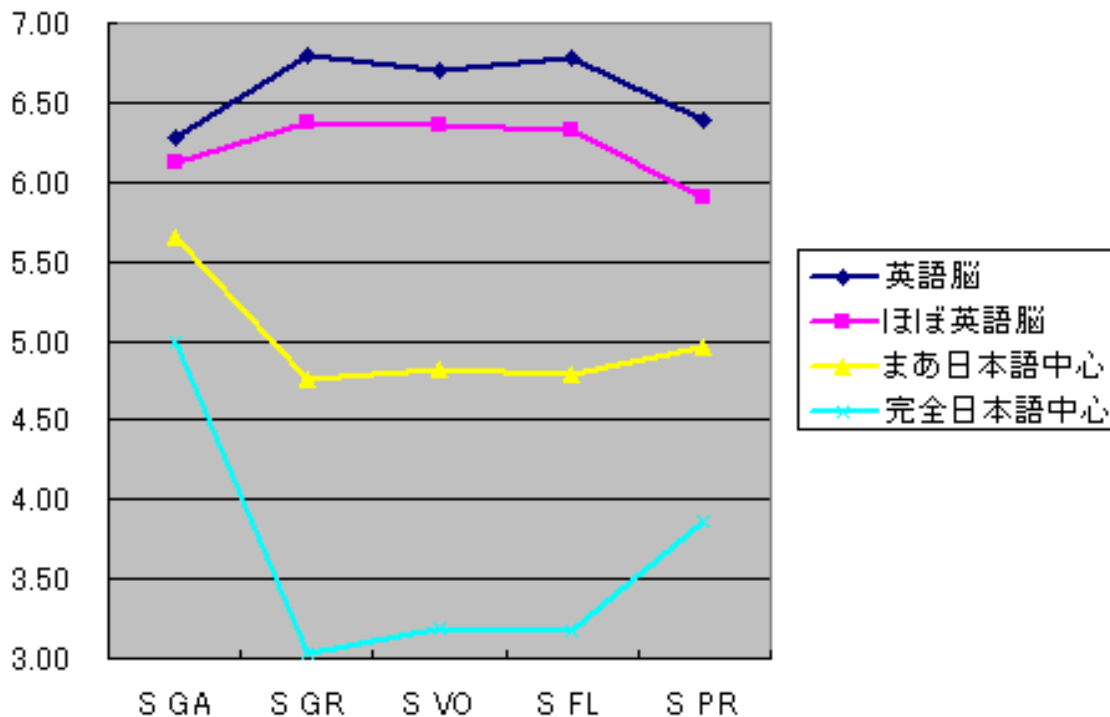
日本語脳とまあ日本語脳、まあ日本語脳とまあ英語脳の間には明確な有意差が見られるが、まあ英語脳と英語脳の間には有意な差はない。

注:ライティングは等分散性の仮定が棄却されなかったため、Scheffe の多重比較によるP値



## 4. 英語脳と日本語脳の英語力の質的な違い(スピーキング)

スピーキングパート別スキルプロファイル  
(10点満点のレベル平均)



	測定技能
GA	意図がどれだけ伝わっているか
GR	文法の正確性・適切さ
VO	語彙の豊富さ・使用の適切さ
FL	流暢さ
PR	発音の適切さ

GAに各群で比較的差がないことはライティングと同じ。GTECではカタコトでもメッセージが伝えられれば評価されるので、若干差が出にくくなるのだろう。また、発音も比較的群による差がない。「英語脳かそうでないか」と発音は、あまり関連がないと言える。

大きく差がついたのは文法の正確性、語彙、流暢さであり、明らかに英語脳ができている人はある程度正しい文を、流暢に話せる(正確性と流暢性の両立)ようになっている。

## 5. 各技能スキルプロファイルの差－詳細②スピーキング

技能	スキル	群	平均レベル	プロフィール
スピーキング	意図の伝達	日本語脳	5	身近でよく知っている内容に限定されていれば、ある程度言いたいことが伝えられるがまだ使用できる語彙が限定的で、使い方も適切でない場合がい。
		英語脳	6	身近でよく知っている内容に限定されていれば、ある程度言いたいことが伝えられるレベル
	文法	日本語脳	3	非常に短い文ができるレベルで、平叙文・簡単な疑問、基本的な時制の使用など以外では文法的な誤りを犯しがち
		英語脳	7	複雑な表現は難しいが、文法の組み立てをあまり意識せずに英語を話すことができる。時を表す副詞句などを使ってまとまった英文を話すことはできる。
	語彙	日本語脳	3	基本の1000語レベルの活用が十分でない。繰り返しが多く、用法や語法が不適切であったり、ナチュラルでない場合が多い
		英語脳	7	語彙や表現の知識はビジネスで日常的に使用されるレベルであれば十分で、会話の中で使用できるレベル。
	流暢さ	日本語脳	3	不必要な間や、「あー、えー」といった形での言いよどみが多く入り、コミュニケーションが滞る
		英語脳	7	自分の得意な内容や、経験のある場面ではある程度ナチュラルに、スムーズに話せる
	発音	日本語脳	3	日本語の発音に強く影響され、英語らしい発音ができない
		英語脳	6	ある程度母語のアクセントが残っているが、通じる発音で話せる

## 補足 分散分析によるレベル平均値の差の検定結果 (スピーキング)

P値

	日本語脳とまあ日本語脳	まあ日本語脳とまあ英語脳	まあ英語脳と英語脳
GA	0.0000	0.0000	0.9998
GR	0.0000	0.0000	0.9974
VO	0.0000	0.0000	0.9896
FL	0.0000	0.0000	0.9977
PR	0.0000	0.0000	0.9998

日本語脳とまあ日本語脳、まあ日本語脳とまあ英語脳の間には明確な有意差が見られるが、まあ英語脳と英語脳の間には有意な差はない。

注:スピーキングは、PRのみ等分散性の仮定が棄却されなかったので、Sceheffe の多重比較によるP値。その他はクラスカル・ウォリス検定によるP値

## 第1部のまとめ

「英語を話したり書いたりするとき、直接英語で考えて書いたり話したりしているか」は、GTECスコアとの相関が確かに高いことがわかった。

ただし、「ほぼどんな場合でも」そうできているという回答者と「時々日本語で考える場合がある」という回答者の間にはスコアに有意差はなかった。

スキルプロファイルのデータで見ると、

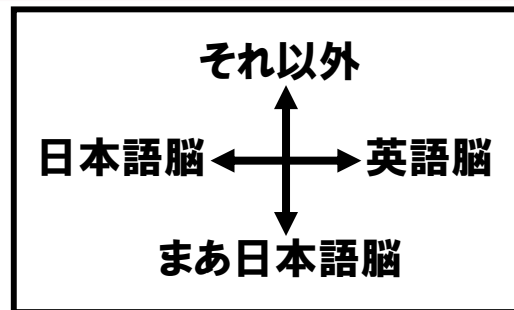
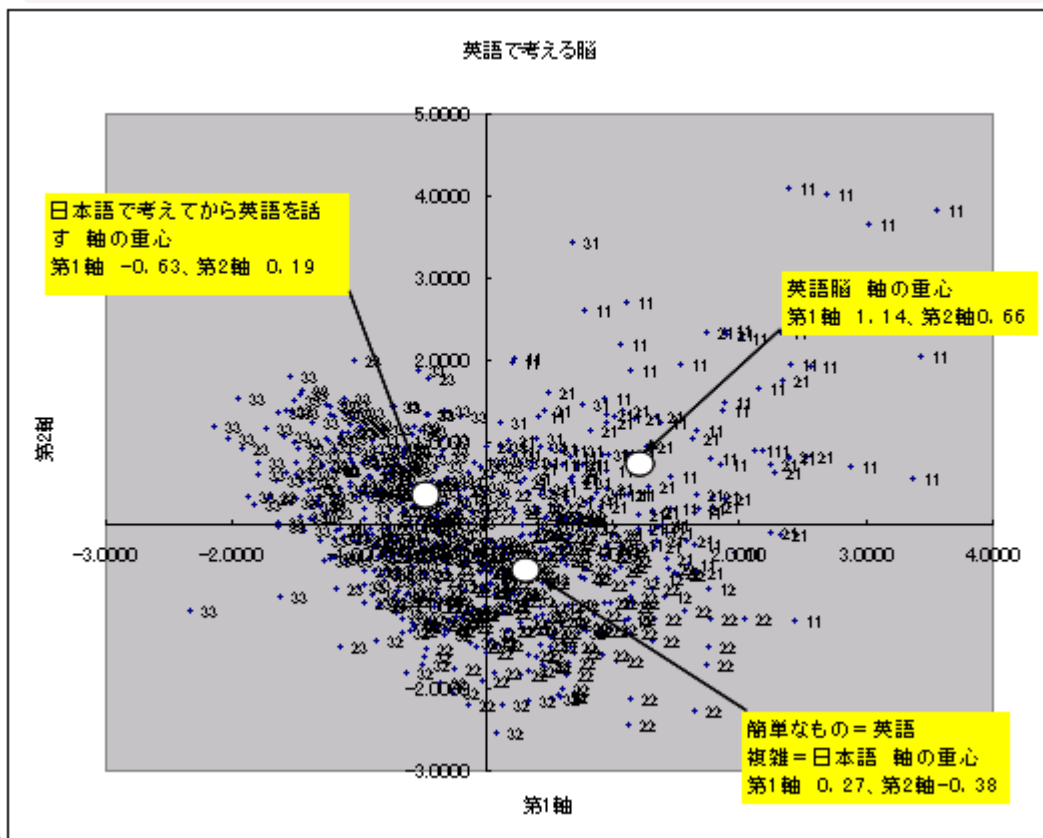
- ① ライティングにおいて、常に日本語を考えて書く学習者は、構成とメカニクス面で特に弱い傾向にある。日本語を英語に直す際の言語の違いによる不自然さや、推敲能力の弱さが読み取れる。
- ② スピーキングにおいては、特に文法・語彙・流暢さに差があることが読み取れる。知識の不足と共に日本語を英語に変換する際の認知的負荷が原因であると考えられる。逆に、発音には大きな差異がなかったことがデータの確かさを裏付けているように思える。

英語を話したり、書いたりする場合の自動化・無意識化は非常に重要であり、これを意図的に目標とした訓練が必要であると考えられる。

## 第2部. 「英語脳」ができている学習者と「日本語脳」のままの学習者。その学習ストラテジーの違いは？

# 1. 英語脳に効く学習活動 概観

まず、アンケート全体の概要をとらえるために、数量化II類(多変量解析の一種)による、英語脳かどうかを判別する分析を行った。各選択肢を選んだ場合の係数の重みを見て、「英語脳」かそうでないかを見る。ただし、「英語脳」と「まあ英語脳」は能力的に差がないので、2つを1つの群としてみる。(以下、このパートの分析では同様)下の散布図は2軸の判別得点を示したものであるが、第1軸が「日本語脳」と「英語脳」を区別するものであり、第2軸は「まあ日本語脳」を区別するものであることがわかる。



横が第1軸、縦が第2軸で、次ページ以降の第1軸の係数が+であるほど英語脳

## 判別成績

英語脳	64.3%
まあ日本語脳	57.1%
日本語脳	71.5%
全体	64.2%

# 数量化II類(「英語脳」を目的とした判別分析)① 帰国を含む

アイテム	第1軸	第2軸	選択肢内容
過去に、学校(中学・高校・大学)以外で英語を学習したり、英語を使う経験をしたことはありますか？	-0.3287	0.0495	中学・高校・大学など、学校教育で習っただけ
	0.3196	1.2960	中学・高校・大学などで、クラブ活動で学習したことがある
	-0.2752	0.0368	学校以外では、本を買って学習した
	0.2320	-0.2086	学校以外では、通信教育やテレビの教育チャンネルで学習した
	0.0252	0.2067	学校以外では、子供の頃に英会話スクールに通ったことがある
	0.0748	-0.0759	学校以外では、大人向けの英会話スクールに通ったことがある
	0.1534	0.4503	学校以外では、個人的に外国人に習ったことがある
	1.3830	2.0332	子供の頃に、(親の仕事などで)外国の学校に通ったことがある
	0.6839	0.6527	留学で、外国の学校に通ったことがある
	0.2036	-0.1880	海外勤務の経験がある。ただし、あまり仕事で英語を使う機会はなかった
	0.4283	-0.3205	海外勤務の経験がある。ほとんど英語を使って仕事をした
	0.0920	-0.5494	上記以外で、学習・使用経験がある
Q5に関連して、学習・使用した期間はどの程度ですか？	-0.0250	-0.9349	全くなし
	-0.1237	0.3440	全くなし
	-0.3228	-0.0390	3ヶ月未満
	-0.1927	-0.0417	半年未満
	-0.0100	0.1752	1年未満
	-0.0958	-0.5854	2年未満
	0.1411	-0.0774	3年未満
	0.2281	-0.6578	5年未満
0.2790	0.3195	5年以上	

## 数量化II類(「英語脳」を目的とした判別分析)② 帰国を含む

アイテム	第1軸	第2軸	選択肢内容
現在、業務や実生活などで英語を使う機会がありますか？(学習は除きます。)それは主にどのようなスキル分野の活動ですか？	-0.1675	-0.1173	学習以外ではほとんどなし
	0.0073	0.3138	主に会話(スピーキング・リスニング)で英語を使用する
	0.0375	-0.1531	主に文書でのやり取り(ライティング・リーディング)で英語を使用する
	0.6087	0.6973	すべてのスキル分野で英語を使用している
あなたは、(テスト勉強以外に)英語力を高めるために自分で英語の学習方法を工夫して見たことがありますか？	-0.3444	0.4487	どのように学習したらよいかわからない。自分で学習法を工夫したことはない
	-0.1914	0.1645	学習方法はわかるが、自分で工夫してみたことはない
	0.2304	-0.4500	少しは自分の弱点や必要に応じて学習方法を工夫してみたことがある
	0.3165	0.7274	いつも、自分に必要な方法を工夫している
英単語集を使って、単語の意味と綴りを本で覚える	0.1074	-0.2099	全くしたことがない
	-0.0367	0.0516	かつて試したことがある
	0.0415	-0.3329	今はしていないがよく行う
	0.0951	0.2498	現在行っている
英単語集を使って、CDなどで音を聞きながら覚える	0.1147	-0.1825	全くしたことがない
	-0.0612	0.1127	かつて試したことがある
	-0.1333	-0.2178	今はしていないがよく行う
	-0.0036	0.2351	現在行っている
英文法について解説された本を買って読む	0.1170	0.1275	全くしたことがない
	-0.0408	0.0418	かつて試したことがある
	0.3597	-0.3535	今はしていないがよく行う
	-0.4185	-0.3105	現在行っている



## 数量化II類(「英語脳」を目的とした判別分析)③ 帰国を含む

アイテム	第1軸	第2軸	選択肢内容
英語の文章を読んで、知らない単語を調べたり、訳したりする	0.1526	0.4254	全くしたことがない
	-0.0207	0.1212	かつて試したことがある
	-0.0144	-0.0404	今はしていないがよく行う
	0.0103	-0.1691	現在行っている
知らない単語などあまり気にせずに、たくさんの英語の文章を読む	-0.2632	0.2815	全くしたことがない
	-0.0260	-0.1778	かつて試したことがある
	0.2550	-0.0723	今はしていないがよく行う
	0.2066	0.0655	現在行っている
リスニング教材で英語を聞くとき、和訳やスクリプトを見ながら聞く	0.2352	0.1320	全くしたことがない
	-0.0231	-0.2098	かつて試したことがある
	0.0338	0.0857	今はしていないがよく行う
	-0.4351	0.4517	現在行っている
日本語字幕なしの英語のTVニュースを聞く	-0.2610	0.1095	全くしたことがない
	0.0934	-0.1904	かつて試したことがある
	0.1923	0.2129	今はしていないがよく行う
	0.2617	0.2544	現在行っている
日本語字幕付きの英語の映画やTVドラマを見る	0.1011	0.0302	全くしたことがない
	0.0088	0.2267	かつて試したことがある
	0.0651	-0.4185	今はしていないがよく行う
	-0.1220	-0.0346	現在行っている

# 数量化II類(「英語脳」を目的とした判別分析)④ 帰国を含む

アイテム	第1軸	第2軸	選択肢内容
覚えたい英語のフレーズや文法を繰り返し口に出して練習する	-0.1654	0.1233	全くしたことがない
	0.0074	0.0307	かつて試したことがある
	0.1593	0.0485	今はしていないがよく行う
	0.0518	-0.3516	現在行っている
ネイティブとフリーカンバセーションをする	-0.2567	-0.1000	全くしたことがない
	-0.0475	-0.0130	かつて試したことがある
	0.1554	-0.1807	今はしていないがよく行う
	0.5644	0.3315	現在行っている
覚えたい英語の語彙・フレーズや文法を繰り返し書いて覚える	0.0593	0.0473	全くしたことがない
	-0.0445	-0.0330	かつて試したことがある
	0.1151	-0.1038	今はしていないがよく行う
	-0.0549	0.2577	現在行っている
日記やブログを英語で書く	-0.1083	-0.0514	全くしたことがない
	0.4334	0.2396	かつて試したことがある
	0.4051	0.6479	今はしていないがよく行う
	0.7404	-0.4974	現在行っている

## 2. 数量化II類(「英語脳」を目的とした判別分析)による日本語脳判別要素

リスニング教材で英語を聞くととき、和訳やスク립トを見ながら聞く	-0.4351	現在行っている
英文法について解説された本を買って読む	-0.4185	現在行っている
あなたは、(テスト勉強以外に)英語力を高めるために自分で英語の学習方法を工夫してみたことがありますか？	-0.3444	どのように学習したらよいかわからない。自分で学習方法を工夫してみたことはない
過去に、学校(中学・高校・大学)以外で英語を学習したり、英語を使う経験をしたことはありますか？	-0.3287	中学・高校・大学など、学校教育で習っただけ
Q6に関連して、学習・使用した期間はどの程度ですか？	-0.3228	3ヶ月未満
過去に、学校(中学・高校・大学)以外で英語を学習したり、英語を使う経験をしたことはありますか？	-0.2752	学校以外では、本を買って学習した
知らない単語などあまり気にせずに、たくさんの英語の文章を読む	-0.2632	全くしたことがない
日本語字幕なしの英語のTVニュースを聞く	-0.2610	全くしたことがない
ネイティブとフリーカンバセーションをする	-0.2567	全くしたことがない

### 3. 数量化II類(「英語脳」を目的とした判別分析)による英語脳判別要素

過去に、学校(中学・高校・大学)以外で英語を学習したり、英語を使う経験をしたことはありますか？	1.3830	子供の頃に、(親の仕事などで)外国の学校に通ったことがある
日記やブログを英語で書く	0.7404	現在行っている
過去に、学校(中学・高校・大学)以外で英語を学習したり、英語を使う経験をしたことはありますか？	0.6839	留学で、外国の学校に通ったことがある
現在、業務や実生活などで英語を使う機会がありますか？(学習は除きます。)それは主にどのようなスキル分野の活動ですか？	0.6087	すべてのスキル分野で英語を使用している
ネイティブとフリーカンパニオンをする	0.5644	現在行っている
日記やブログを英語で書く	0.4334	かつて試したことがある
過去に、学校(中学・高校・大学)以外で英語を学習したり、英語を使う経験をしたことはありますか？	0.4283	海外勤務の経験がある。ほとんど英語を使って仕事をした
日記やブログを英語で書く	0.4051	今はしていないがよく行う
英文法について解説された本を買って読む	0.3597	今はしていないがよく行う
過去に、学校(中学・高校・大学)以外で英語を学習したり、英語を使う経験をしたことはありますか？	0.3196	中学・高校・大学などで、クラブ活動で学習したことがある
あなたは、(テスト勉強以外に)英語力を高めるために自分で英語の学習方法を工夫してみたことがありますか？	0.3165	いつも、自分に必要な方法を工夫している

数量化II類は、どのアイテム・カテゴリに反応しているかで目的とする群の判別を行うためのもの。必ずしもどの学習行動が英語脳を作るために有効かを見るものではないが、重要な学習行動の目安にはなると思われる。

日本語脳判別に有効なのは、

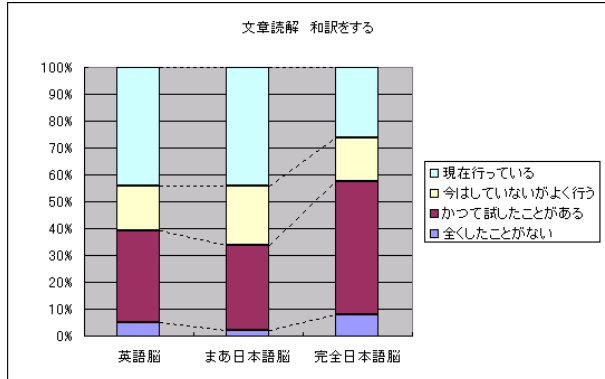
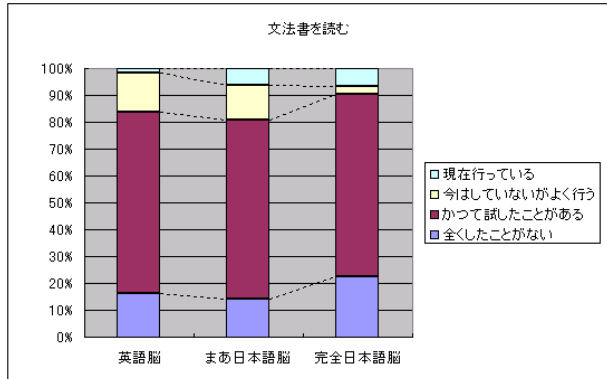
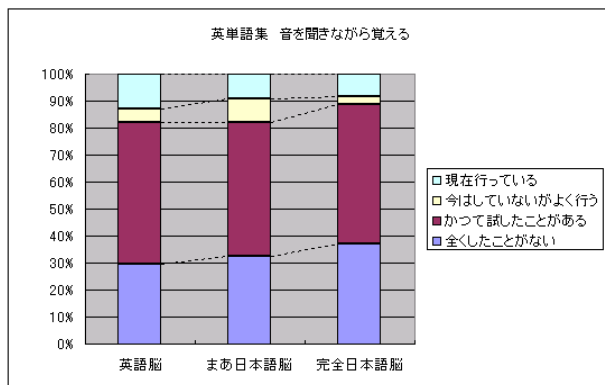
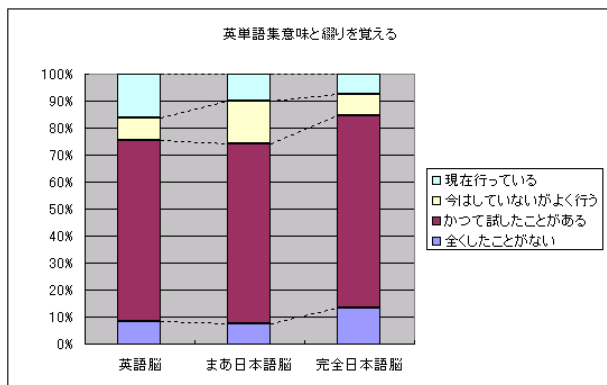
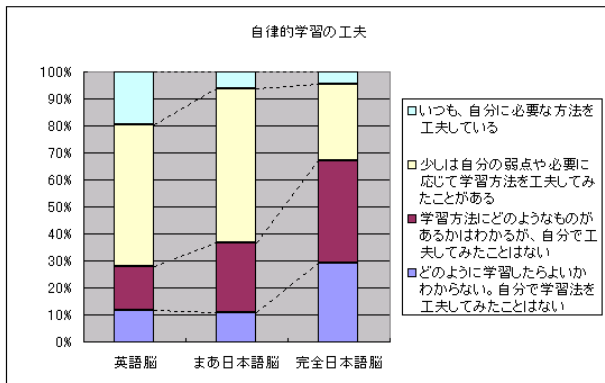
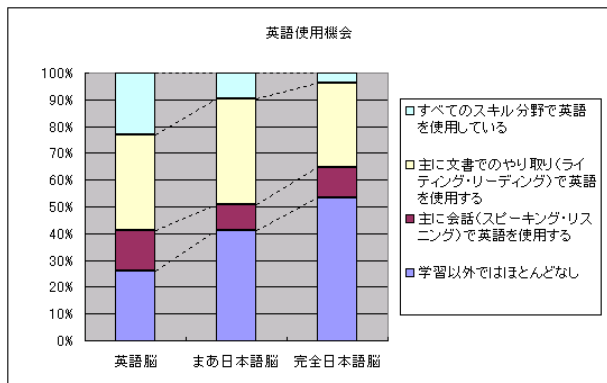
- ・和訳に頼るリスニング
- ・文法書を読んだだけで英語の学習と考えること
- ・自ら学習を工夫したことがない(学習の非自律性)
- ・多読や、オーセンティックなリスニング経験、ネイティブとの会話を行ったことがない(自動化訓練の欠如)

英語脳の判別では、

- ・帰国子女・留学経験・英語を主に使用した海外勤務経験
- ・日常における英語の必要性
- ・日記やブログなど書く作業、ネイティブとの会話などの自動化訓練
- ・自律的学習者であること

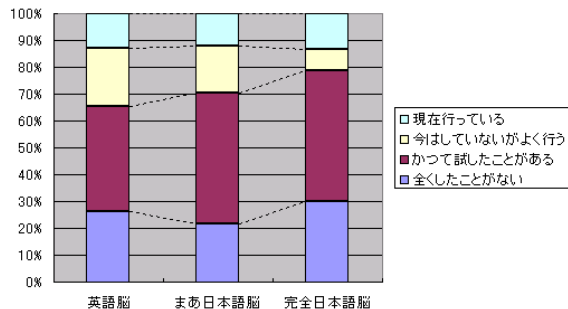
ただし、留学・帰国子女(5年以上)が最も有効と言っても日本で学習する学習者には参考とならないので、次に、帰国子女・留学経験(5年以上)を除く英語脳と日本語脳の学習活動の違いを見てみる。

## 4. 帰国・留学を除く、群別の学習方法選択率①

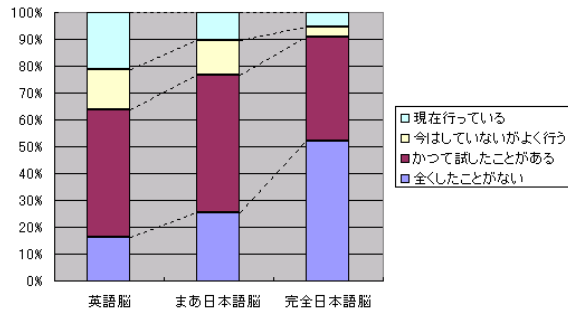


## 4. 帰国・留学を除く、群別の学習方法選択率②

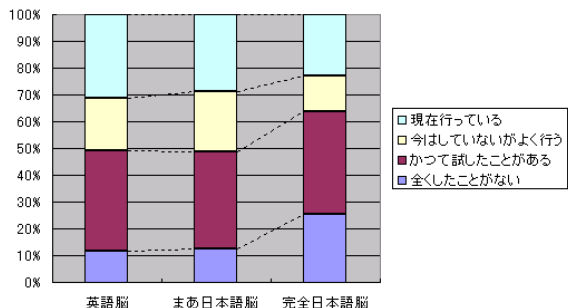
リスニング教材 スクリプトを見る



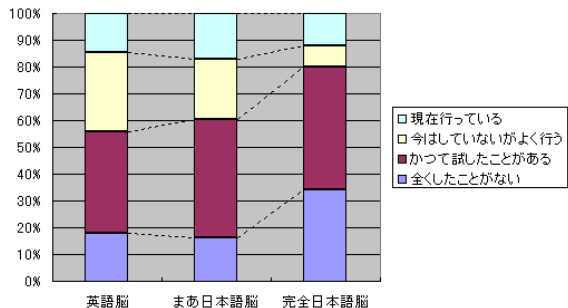
英語のTVニュースを聞く



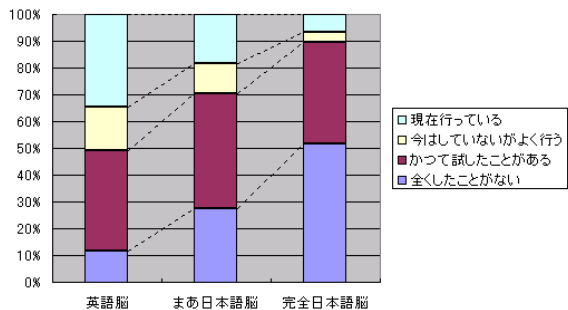
字幕付きのドラマや映画を見る



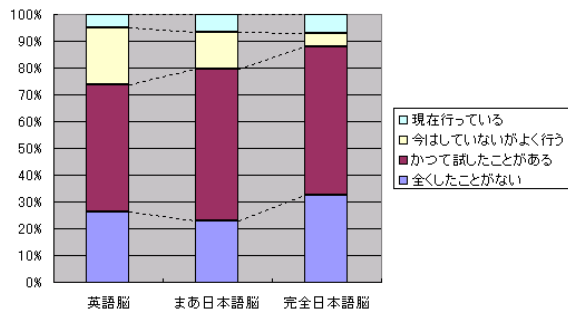
覚えたいフレーズの口慣らし練習



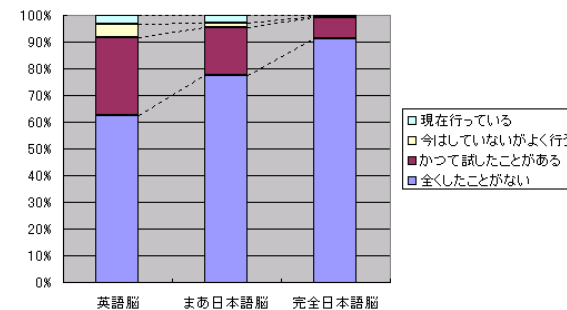
ネイティブとのフリーカンパセーション



覚えたいフレーズを書いて覚える



日記やブログを英語で書く



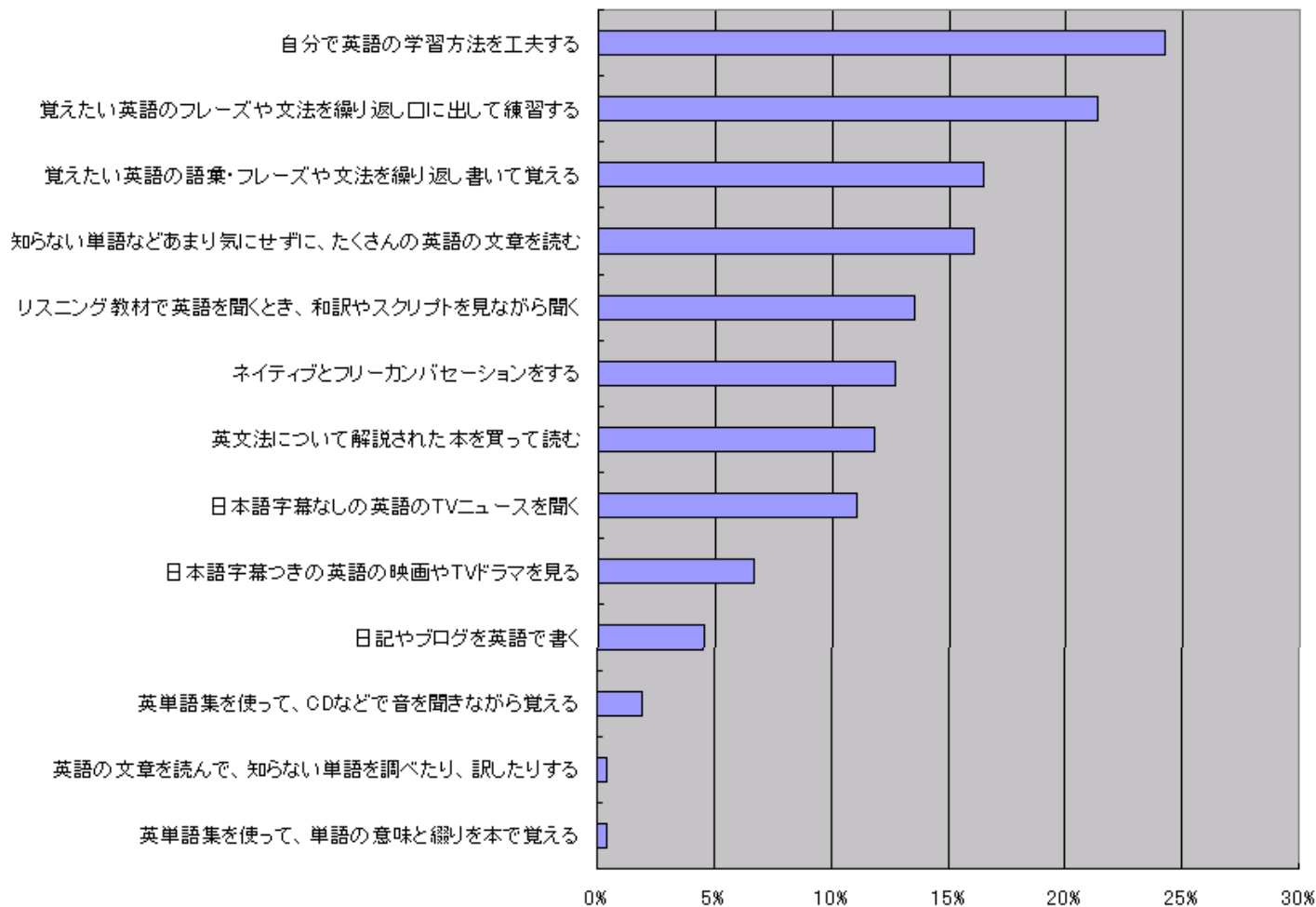
# 5. カイ二乗検定による、群別の選択率の独立性の検定

質問項目	全体の独立性の検定		英語脳とまあ英語脳		まあ英語脳と日本語脳	
	P値	有意差	P値	有意差	P値	有意差
現在、業務や実生活などで英語を使う機会がありますか？それは主にどのようなスキル分野の活動ですか？	0.0000	**	0.0093	**	0.0031	**
あなたは、(テスト勉強以外に)英語力を高めるために自分で英語の学習方法を工夫してみたことがありますか？	0.0000	**	0.0062	**	0.0000	**
英単語集を使って、単語の意味と綴りを本で覚える	0.0085	**	0.2842		0.0055	**
英単語集を使って、CDなどで音を聞きながら覚える	0.0958		0.5832		0.0312	*
英文法について解説された本を買って読む	0.0003	**	0.5386		0.0001	**
英語の文章を読んで、知らない単語を調べたり、訳したりする	0.0000	**	0.4579		0.0000	**
知らない単語などあまり気にせずに、たくさんの英語の文章を読む	0.0000	**	0.2687		0.0000	**
リスニング教材で英語を聞くとき、和訳やスクリプトを見ながら聞く	0.0075	**	0.6056		0.0027	**
日本語字幕なしの英語のTVニュースを聞く	0.0000	**	0.0838		0.0000	**
日本語字幕付きの英語の映画やTVドラマを見る	0.0011	**	0.9527		0.0002	**
覚えたい英語のフレーズや文法を繰り返し口に出して練習する	0.0000	**	0.6385		0.0000	**
ネイティブとフリーカンバセーションをする	0.0000	**	0.0061	**	0.0000	**
覚えたい英語の語彙・フレーズや文法を繰り返し書いて覚える	0.0008	**	0.3996		0.0013	**
日記やブログを英語で書く	0.0000	**	0.0545		0.0002	**



## 6. 日本語脳と英語脳で、過去行った学習経験で何が違うか

英語脳と日本語脳の過去の学習経験差(帰国・留学経験者除く)

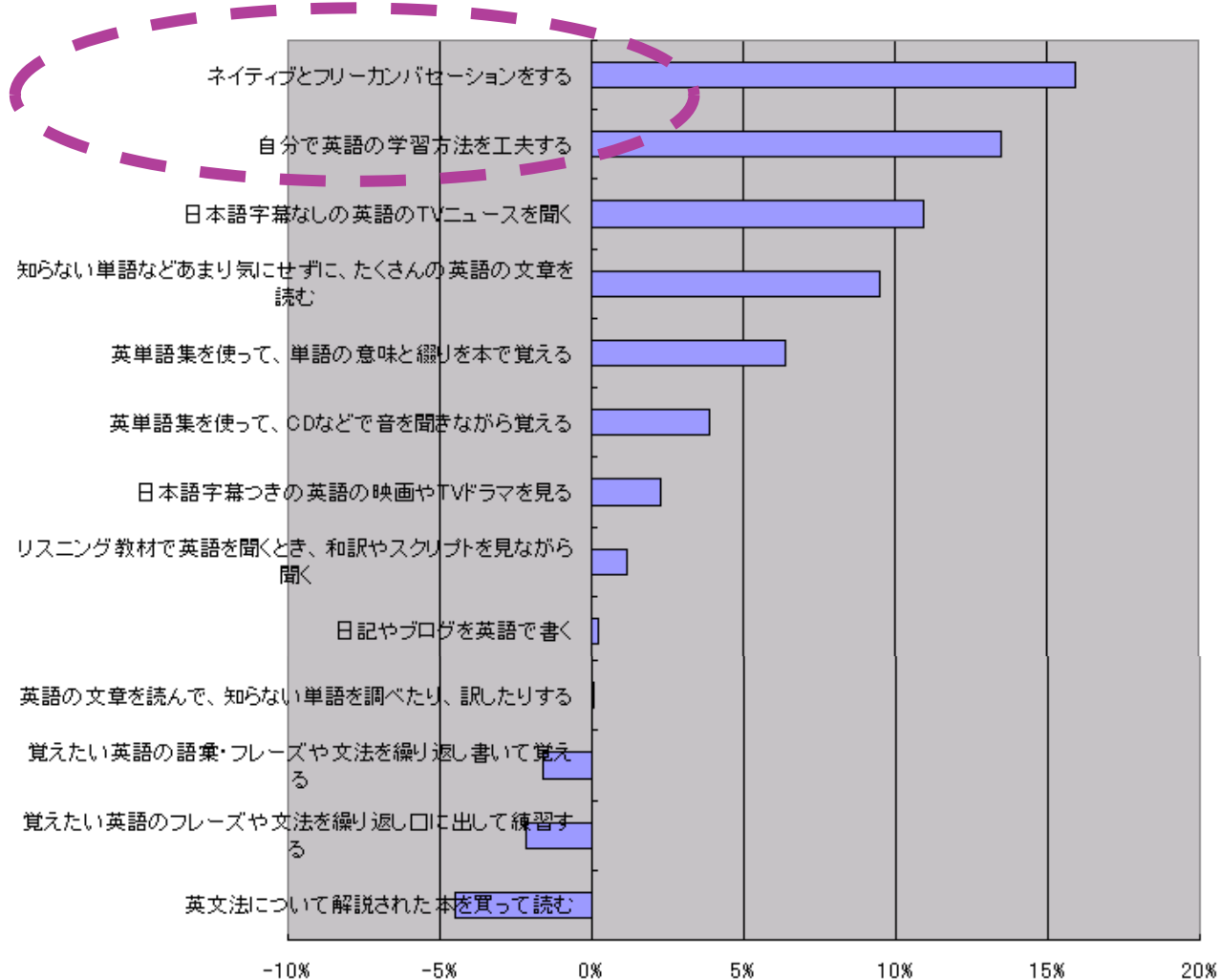


帰国子女・留学経験者を除く英語脳の過去学習経験%から日本語脳の過去学習経験%を引いたもの。

英語脳を持つ人たちが過去どのような学習をしていたかの特徴が出るので、日本語脳の学習活動と差が大きいほど初学者が英語脳を作る最初の要因になると考えられる。

# 7. まあ日本語脳と英語脳で、現在行っている学習の何が違うか

英語脳とまあ日本語脳の現在の学習実施状況差(帰国・留学経験者除く)



帰国子女・留学経験者を除く英語脳%からまあ日本語脳の現在の学習活動%を引いたもの。

現在の学習活動と差が大きいほど、中級から上級になるために最終的に英語脳を作る要因になると考えられる。

ただし、有意差があったのは上位2つの項目であり、ネイティブとの会話経験と自律的な学習の工夫のみ。

## まとめ～本研究から得られた英語学習・教授法に対する示唆

- 1 英語学習においては、日本語からできるだけ離れ、英語で考えて英語で話す・書く訓練をしているかどうか重要なポイントとなる。

普段行っている学習法にはどれだけ日本語が含まれるか？また、自動化・無意識化を意図した訓練をどれだけ行っているだろうか？

- 2 自律的に自らの学習法を工夫できる学習者は成功している。普通の授業の中で、どれだけ「学び方」を教え、学習の工夫を促しているだろうか？
- 3 やるべき時期・状態にあった学習法を行わなければ効果は薄い。初期学習段階では、(特に発信技能において)口慣らしや繰り返し書く練習は有効と思われるが、中級段階以降は実践的な口頭練習が意味を持つようである。